

2015 年度 雑誌「野生生物と社会」編集委員会 理事会・総会報告資料

編集長 梶 光一

1.発行状況

昨年の総会以降、2巻1号を2014年12月、2巻2号を7月に発行した。3巻1号は11月中に発送される予定。

2巻1号（総説1 原著2 報告1） 2014年12月

2巻2号（原著2 短報1 報告1） 2015年7月

3巻1号（鳥獣保護法改正シンポ関連特集号5 原著1） 2015年11月中発行予定

2.投稿状況

投稿数は過去3年間で最低となった。特集5本は依頼原稿であるので、投稿数の低下は顕著である。改善としては、タイムリーな特集を企画していくことと、学位論文を予定している大学院生の投稿先としての魅力ある雑誌にしていく必要がある。

2015年 投稿論文数 12本 受理6本(3巻1号) 取り下げ・却下 2本 査読中4本

2014年 投稿論文数 18本 受理7本 取り下げ・却下 11本

2013年 投稿論文数 16本 受理13本 取り下げ・却下 3本

3.編集状況

査読者は大変丁寧にみているが、どちらかという日本語に問題がある論文がままある。投稿後のルールとして、査読者依頼まではおおむね数日で済んでいる。2015年の特集号ではない一般投稿された5本の論文の査読状況をみると、10人の査読者のうち大幅に遅れた事例1例(104日)を除くと、平均29日(9~50日)であった。査読期間3週間にはほど遠い状況にある。特集号の3巻1号は、八代田・中村両名の迅速な編集および校正作業により、ほぼ予定通りの刊行が可能となった。

4.査読状況の改善

本学術誌は社会科学と生態学の融合分野であり、本分野を志す若手の裾野も広がりつつある。投稿数を確保するためには、迅速な査読が必須であり査読者のプールを用意しておく必要がある。また、これまで以上に編集者・査読者に時間厳守の意識を高めていく必要がある。

5.今後の刊行予定

3巻2号は6本の掲載を予定して、2016年2月の発行を目指す。